

「みずかがみ」栽培こよみ

平成26年3月 滋賀県農業技術振興センター

<高品質・良食味米生産の栽培ポイント>

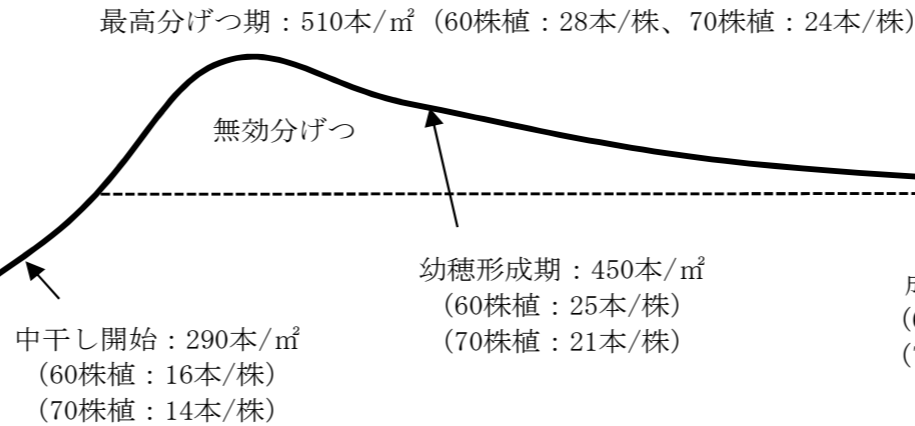
- ① 移植は、茎数不足にならないように基準の栽植密度（湖辺；60株/坪、湖辺砂質・平坦；60~70株/坪、中山間；70株/坪）より粗くしない。
- ② 基肥と穂肥は基準量を目安に施用する。また、穂肥は出穂25日前（幼穂長1mm）に確実に施用する。
- ③ 出穂期、成熟期ともに「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」より早いため、適期を逃さずに穂肥施用、防除、収穫等を実施し、品質低下を防止する。

<施肥基準(窒素成分量)>

地帯	施肥法	基 肥	穂肥(-25日)	計
湖 辺	全層	4kg	3kg	7kg
	側条	3~4kg	3kg	6~7kg
湖辺砂質 平坦	全層	4~5kg	3kg	7~8kg
	側条	4kg	3kg	7kg
中山間	全層	5kg	3kg	8kg
	側条	4~5kg	3kg	7~8kg
大豆跡	上記基準の半量を上限とする。			

(N/10a)

<茎数の推移>



<特性概要>

項目	みずかがみ	コシヒカリ
出穂期	7月25日	7月28日
成熟期	8月27日	8月31日
稈長	84cm	95cm
穂数 (/m ²)	368本	415本
精玄米重 (/10a)	559kg	541kg
同上比率	(103)	(100)

移植基準日：5月10日（農業技術振興センター 2009~2012年）

<収量構成要素の目安>

項目	目安	項目	目安
穂 数	360本/m ²	登熟歩合	85%
一穂粒数	85粒	玄米千粒重	21.0g
m ² 当粒数	31,000粒		

<収量・品質の目標>

- 収量540kg/10a（粒厚1.85mm以上）
- 整粒歩合80%以上（1等米格付は70%以上）

- ※ 全量基肥施肥の場合は、基肥に穂肥を加えた値を上限にする。
- ※ 環境こだわり栽培のため、化学肥料の使用量は、窒素成分で4kg/10aを超えないようにする。
- ※ 上表を基準とし、地力に応じて加減する。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
生育期 区 分	育苗期	移植期 活着期	有効分げつ期 無効分げつ期	幼穂 形成期	穂ばらみ期 出穂期	登熟期 成熟期			
水 管 理	浅水代かき・自然減水	やや深水 浅水管理	中干し	間断かんがい	★常時湛水管理(出穂前後各3週間)	間断かんがい			
栽培管理のポイント (★は注意事項)	【健苗の育成】 ・ 温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止 ・ うす播き、均播を励行 ・ 十分に浸種して催芽を確実に ・ 温湯消毒は60~62℃で10分間実施	【移植・施肥】 ★ 5月1日から15日を中心に移植 ★ 基肥は基準量を目安に施用 ★ 基肥は基準量を目安に施用 ・ 1株の植付本数は3~4本 ・ 荒天時の移植は避ける ・ 活着後は浅水管理 ・ 除草剤処理後は止水管理7日間を遵守して、 除草効果を高める ・ 移植後はやや深水にして活着を早める	【溝切り・中干し】 ★ 溝切り・中干しは目標穂数の8割の茎数で実施	【穂肥施用】 ★ 出穂25日前、窒素成分3kg/10aを基準	【畦畔の2回連続草刈り】 ★ 出穂2~3週間前と出穂期の2回草刈の徹底	【病害虫防除】 ★ カメムシ類の適期防除の実施	【登熟後半の水管理】 ★ 刈取予定日の5日前まで間断かんがいを実施	【収穫】 ★ 刈黄化率85~90%が刈取適期 ・ 胴割れに注意 ・ 刈り遅れに注意 ・ 乾燥時の仕上げ水分は14.5% ・ 乾燥速度で胴割れと過乾燥米を防止 ・ 乾燥・調整	【土づくりの徹底】 ・ 稲わらの腐熟促進のため、秋耕を実施 ・ 土づくり肥料を施用

← 斑点米カメムシ類対策 →